

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日. Values include 0495100455, 医療法人社団初心会, グループホームひじり, 宮城県仙台市青葉区八幡6丁目8番26号, 令和 5年 8月 25日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中で一年通し季節を感じただけのよう、季節ごとの行事に力を入れています。庭には花壇があり入居者の思いを取り入れ、花や野菜・果物を植えています。収穫時期を迎えた野菜・果物は調理し食事の時間に提供して楽しんでいます。地域社会との関わりを大切に地域活動にも積極的に参加しています。運営母体でもある杜のホスピタルあおぼとの連携体制も確保されており医療面においても安心に繋がっています。自立と尊厳を尊重し、安心できる暮らしの提供を理念に掲げ、常に入居者を主としたケアを心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, URL: http://www.kaigokensaku.jp/

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは同法人の病院や他のグループホームと隣接し、地域住民とも関わり合いながら暮らしている。近くに広瀬川が流れ、あふれる自然の中での散歩や窓越しの景色は入居者の楽しみでもある。法人病院から、医療面の支援やプロレス観戦(病院主催)の楽しみ、音楽療法士を来訪させる等の協力を得ている。目標達成計画は研修やミーティングの内容を議事録に残す事や緊急マニュアルに沿って種々の訓練を実施した事、備蓄品の内容を法人のマニュアルに反映し実行した事で達成できた。更なるケアの向上を目指す職員と家族に支えられている入居者は、お互いの笑顔の中で過ごしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Values include NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会, 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階, 令和 5年 10月 16日.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/family satisfaction levels.

2.自己評価および外部評価結果(詳細)( 事業所名 グループホームひじり )「ユニット名 青葉通り 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、グループホーム理念、年度目標を各ユニット事務所内に掲示している。年2回自己評価を実施し振り返りを行っている。	理念は継続し、年度目標は2月にユニットリーダー等と相談して決めた。個人目標はミーティング時に振り返っている。「自立と尊厳を尊重する」を介護者の自覚と捉えて、感謝の言葉を励みにケアに当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、活動に積極的に参加している。互いの意見交換を行い日常的に交流している。	町内の草刈りに職員が参加し、ホーム駐車場での町内会主催の芋煮会は入居者も参加した。法人保育園児がハロウィンパーティーに來たり、地域住民に向けた認知症認定看護師による講話を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方々との交流の場を設けている。そのなかで認知症に対する理解を共有し適時必要な情報発信を心掛けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎の定期開催している。現在はコロナ禍のため関係者へは書面送付している。アケシデントレポートに対するご意見や日頃の感謝等お言葉をいただいている。	メンバーは町内会長や民生委員、地域包括職員、家族、入居者である。「防災に対する意識が高い」や「写真で見ると活動報告が分かり易くて良い」等の意見を貰った。対面での会議も始めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、地域包括支援センターへの実情、活動報告をしている。施設内コロナ陽性者発生時には仙台市担当部署、保健所に迅速に相談・報告を行い良好な協力関係を築けるよう取り組んでいます。	区分変更や生活保護の手続き等で行く。市からの通知で実践者研修や基礎研修、イーラーニング等に参加した。検査キッドの配布があり、保健所からはコロナ感染対策の情報を貰った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しい知識の習得を目的に、外部研修やオンライン研修に職員全員参加しています。身体拘束廃止委員会の活動もその一つで、第三者(法人職員)を招いてケアの質を振り返る機会を設けています。	オンライン研修を全員が受けている。「身体拘束廃止委員会」は各ユニットの委員と管理者で運営している。スピーチロックには「○○しませんか」等の言い換え言葉の対応を共有している。研修時に「理解度テスト」を行い身体拘束廃止の支援に努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	正しい知識の習得を目的に、外部研修やオンライン研修に職員全員参加しています。不適切なケアが放置されることなく相談できる体制作りにも努めています。	勉強会はテキスト読み合わせの他、外部研修に参加した職員が伝達研修をしている。不適切ケアは全員で考え、方向性を共有している。管理者は職員の様子を把握し、都度声をかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会へ参加し、職員全員への伝達講習を実施しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には十分は説明を心掛け、入居後も積極的にお声掛けをし入居者、ご家族の不安や疑問解消に努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、ご家族が要望やご意見をグループホームや第三者機関に報告が出来ることを明記した文書を施設内に掲示しています。日頃から良好な関係作りに配慮しています。	面会時や電話等で意見を得ている。夕方になると落ち着かない方の家族からの要望で家族と外出したところ、改善に繋がった。外反母趾の方の靴の購入に対応した。玄関に意見箱を置いている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個人面談の場で、職員の意見や提案等を聞く機会を設けています。否定することなくしっかり耳を傾け意見交換を行うことでお互いのモチベーションが高まり充実感を得られています。	ドライブの提案があり秋保に行った。実務者研修等の参加時は勤務扱い、受講料は法人の全額負担としている。受講後に伝達研修を行う事は職員の励みになっている。休暇取得は職員の要望に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員とのコミュニケーションを通して職員個々の能力を認め、必要性を伝えていきます。ホームでの役割を明確に伝えることで向上心、やりがいに繋げられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務調整をして研修会参加を支援し、職員が講師となり伝達講習を行う場を設け、お互いのスキル向上に繋げている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加することで他事業者の職員との交流を深め情報交換し自施設のサービス向上に努めています。	「八幡連携の会」に参加し、厚生病院の「院内感染対策セミナー」や市内弁護士による「高齢者虐待」等をケアマネが受講した。外部研修で小学生との交流の場を設定した話が参考になった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者とのコミュニケーションの中から、不安や困っていること要望等に耳を傾け、ご家族との情報交換を密に行い、本人様が安心できる生活支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に向け介護支援専門員と共に、本人様やご家族の不安、要望を聞き取り可能な限り受け入れるよう努めています。入居後もこまめにお声掛けすることで良好な関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報、本人とご家族の要望を考慮し、職員間で情報共有を行い、あらゆる角度からアプローチをし必要な支援を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アクティビティを通して、職員は入居者と共に楽しむことを心掛けています。活動制限や参加制約をせずに「出来ること」を見守るように心掛けている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との情報交換をこまめに行っています。本人とご家族との絆をしっかりサポートする立場であることを自覚し関わっています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様宛のお電話やお手紙はしっかりお繋ぎしています。時にはお手紙のお返事を職員と一緒に書いてお出しすることもあります。	ハーモニカの好きな方が居り、法人病院の音楽療法士が毎月1回来る。入居者のぬり絵を玄関に飾り来訪者の目に留まる。マッサージ師や理美容師、歯科衛生士等が定期的に訪れ、馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの関係性を考慮し座席配置しています。アクティビティの時は入居者が孤立することのないように職員から積極的に声掛けするように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が「その時」に必要な生活をサポート出来るように必要に応じた相談、支援を行えることをお伝えしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活のなかでの言葉や要望を職員間で共有している。時にはご家族からお話を聞き、入居者にとって最適な生活に繋がる思いや意向の把握に努めています。	入浴時や1日々の関わりの中から意向を得ている。食べたい物の希望が多い。「何か手伝うか」と言われる事もあり、食器を洗ったり拭いたり役割がやりがいのになっている。モーニングコーヒーを毎日楽しんでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時、これまでの生活歴を中心に本人、ご家族よりお話を伺い情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の健康状態、言動等を日々観察し介護記録や申し送りノートを用いて職員全員が把握・共有出来るように努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報収集、ケアプランの策定、カンファレンス、ケアの実行、モニタリングといった一連のプロセスを本人・ご家族の要望や関係者の意見を取り入れ、課題・目標を明確にし、継続的な展開を意識した介護計画を作成しています。	洗濯物の戻りを案じる方には、ホワイトボードに書いて確認して貰う対応に変えた。食事が半減した方に飲む栄養剤の処方がプランに加わった。話好きの方に他の方との間をとり持つことを計画に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを個別介護記録や申し送りノートを利用し職員間で情報共有を行い介護計画の見直しに繋がっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応するために、現状を把握し「今必要なことは何か？」あらゆる角度から分析し柔軟な支援を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し積極的な交流を行い入居者にとって日常生活に楽しみ、生きがいを感じていただける支援を進めています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の訪問診療を受診し、本人の様子やご家族の希望を細かく報告・相談しています。受診報告は月1回文章でご家族へ報告しています。緊急時にも主治医に連絡し指示を仰いでいます。	全員が協力医の訪問診療を受けている。歯科診療は訪問やかかりつけ医の方もいる。専門医受診は家族対応だが、緊急時は職員も対応する。看護職員が数名居り、医療面の安心に繋がっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関係機関の看護職員とは都度、情報交換を行い適切な医療診療が受けられる体制を整えています。緊急時も連携を取り合い支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院関係者と情報交換を行い入居者とご家族が安心して治療できる環境を整えるように心掛けています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にはご家族の要望をお聞きし、これから先の方針を決めています。本人が望むであろう過ごし方、ご家族との過ごす時間を見直し支援しています。職員には看護師より看取り事前研修会、事後の振り返り研修をおこなっています。	入居時に「入居者が重度化した場合における対応に係る指針」を説明し同意を得ている。医師から看取り告知時に、家族の意向を再度確認している。看取り時の夜間対応手順書は解り易くする為、見直している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止の取り組み、緊急時の対応方法を学ぶ研修を全職員受講しています。的確な初期対応が出来るように実践訓練にも取り組みます。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回、定期的に行い通報、初期消火、避難誘導の確認訓練を実施しています。地域住民との災害訓練にも参加し防災備品確認や安否確認ルール等を取り決めました。	夜間の出火を想定した消防訓練をした。「土砂災害危険区域」でもある為、災害時の自炊訓練をユニット合同で行った。災害用備蓄品の3日分を取り出しやすい所に収納している。次の訓練を12月に予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を通して人格の尊重、プライバシー確保に対する知識習得を行っています。居室訪室時にはノックをしてから入室、排せ介助時の見守りや声掛けにおいてもプライドを損ねない配慮をしています。	名前に「さん」をつけて呼び掛けている。入居者の言動を否定せずに、入居者の個性や特徴に合わせて孫役や息子役をする事がある。トイレ誘導の際は、人の少ない所へ移動し、小さい声で話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	季節感を味わえる食事のメニューでは、入居者の思いが反映されるように個別にお話しをお聞きし、自己決定出来るように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでのタイムスケジュールは設定しているが、時間内で終わらせることを優先させるのではなく、本人が望む生活リズムを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を尊重しています。希望する物品があればご家族に相談し準備をお願いしています。清潔感のある身だしなみを心掛けています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや、その方に合った食事形態で提供しています。季節の食材を取り入れ、目で楽しめる盛り付けに工夫しています。食事の準備や後片付けも入居者と一緒に行っています。	玄関先でバーベキューを行った。ハンバーグや寿司が人気で、誕生日にはケーキを購入して祝う。調理はパート職員が担当し、食器の後片付けを入居者もしている。刻み食等の対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に合った食事形態を管理栄養士、言語聴覚士からの助言をいただき提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めています。歯磨きが不十分な入居者には職員が仕上げ磨きを行います。訪問歯科診療時、専門家からの助言を職員間で情報共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立排泄を目的に、生活・排泄パターンを把握し適切なタイミングでの声掛け、トイレ誘導の参考にしている。	排泄パターンを把握し、声掛け誘導している。着衣の手直し介助などの支援で全員がトイレで排泄ができています。夜間は離床センサー等でトイレに誘導している。夜間のみオムツ使用の方は、見守る事が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を取り入れた食事の提供、便秘予防運動の取り組んでいる。また、ご家族から本人の便秘予防につながる情報をお聞きし、個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴を楽しんで頂けるように室内温度、湯加減に気を付けています。希望があれば入浴剤を入れ香りを楽しんでもらっています。入浴時間は入居者の意に沿えるようにしています。	週2回の入浴で、事前にバイタルを測定し、風呂上がりにはスポーツドリンクで水分補給をする。季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の他、入浴剤を3種類から選べる。脱衣所や浴室は適温に保たれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ休憩や睡眠をとって頂けるようにしています。その際、居室の環境(温度、明るさ等)に気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬に関する情報は薬情情報を確認し支援しています。職員がいつでも閲覧できるように所定の場所に設置しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人やご家族から趣味や特技をお聞きし、ホームでの役割、楽しみを共に行うことで生活に張り合いを感じて頂けるように支援しています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂ける外出、本人が希望する場所への外出企画を提案しています。法人主催のイベント参加、施設周辺の散歩を支援しています。	庭で作った大葉や茄子、裏の竹やぶの筍も収穫した。桜の季節には川内方面等にドライブする。法人病院でのプロレス観戦を楽しみ、楽天の試合観戦を目指して、体力向上の為の散歩に励んでいる方もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望し管理が可能であれば、ご家族の了承得て所持出来るように配慮しています。外出先では本人のお小遣いから支払います。支払い証明書を発行し金額、購入品をご家族に報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者、ご家族から要望があるときには、電話やお手紙のやり取りが出来るように支援しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア全室の温度管理を行い快適に生活出来るようにしている。フロアにはサーキュレーターを設置し対流を図り、1日3回定時で換気を行っている。居室にはご家族からの写真やお手紙を掲示し居心地良く生活を送れる工夫をしています。	日中はフロアで過ごす事が多い。童謡を歌ったり、音楽や職員のリードでの体操に参加し、音や動きを楽しんでいる。入居者と職員の合作のハロウィンモールが南側の窓を飾り、園児達の来訪を待っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活歴や生活習慣等、その方の人間関係の傾向を考慮し思い思いに過ごせる座席配置やスペース確保の工夫をしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込み、本人が落ち着いてくつろげる空間になるように、ご家族の協力を頂き入居者と共に環境整備をしています。	備え付けはクローゼットやベッド等で、サイドボードや一人用ソファ、テレビ等を持ち込む方がいる。家族の写真や携帯電話等の馴染みの物で、昼食後の午睡等をして、ゆったりとその人らしく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を設置し自分のお部屋がわかるようにしています。トイレや浴室など共用スペースにはその方が理解しやすい言葉やマークで表示する配慮をしています。(浴室=風呂場、トイレ=お手洗い 便所)		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100455		
法人名	医療法人社団初心会		
事業所名	グループホームひじり	ユニット名	定禅寺通り
所在地	宮城県仙台市青葉区八幡6丁目8番26号		
自己評価作成日	令和 5年 8月 25日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年 10月 16日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中で一年通し季節を感じただけのよう、季節ごとの行事に力をいれています。庭には花壇があり入居者の思いを取り入れ、花や野菜・果物を植えています。収穫時期を迎えた野菜・果物は調理し食事の時間に提供して楽しんでいます。地域社会との関わりを大切にし地域活動にも積極的に参加しています。運営母体でもある杜のホスピタルあおぼとの連携体制も確保されており医療面においても安心に繋がっています。自立と尊厳を尊重し、安心できる暮らしの提供を理念に掲げ、常に入居者を主としたケアを心掛けています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは同法人の病院や他のグループホームと隣接し、地域住民とも関わり合いながら暮らしている。近くに広瀬川が流れ、あふれる自然の中での散歩や窓越しの景色は入居者の楽しみでもある。法人病院から、医療面の支援やプロレス観戦(病院主催)の楽しみ、音楽療法士を来訪させる等の協力を得ている。目標達成計画は研修やミーティングの内容を議事録に残す事や緊急マニュアルに沿って種々の訓練を実施した事、備蓄品の内容を法人のマニュアルに反映し実行した事で達成できた。更なるケアの向上を目指す職員と家族に支えられている入居者は、お互いの笑顔の中で過ごしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)( 事業所名 グループホームひじり )「ユニット名 定禅寺通り 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、グループホーム理念、年度目標を各ユニット事務所内に掲示している。年2回自己評価を実施し振り返りを行っている。	理念は継続し、年度目標は2月にユニットリーダー等と相談して決めた。個人目標はミーティング時に振り返っている。「自立と尊厳を尊重する」を介護者の自覚と捉えて、感謝の言葉を励みにケアに当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、活動に積極的に参加している。互いの意見交換を行い日常的に交流している。	町内の草刈りに職員が参加し、ホーム駐車場での町内会主催の芋煮会は入居者も参加した。法人保育園児がハロウィンパーティーに來たり、地域住民に向けた認知症認定看護師による講話を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方々との交流の場を設けている。そのなかで認知症に対する理解を共有し適時必要な情報発信を心掛けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎の定期開催している。現在はコロナ禍のため関係者へは書面送付している。アクシデントレポートに対するご意見や日頃の感謝等お言葉をいただいている。	メンバーは町内会長や民生委員、地域包括職員、家族、入居者である。「防災に対する意識が高い」や「写真で見える活動報告が分かり易くて良い」等の意見を貰った。対面での会議も始めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、地域包括支援センターへの実情、活動報告をしている。施設内コロナ陽性者発生時には仙台市担当部署、保健所に迅速に相談・報告を行い良好な協力関係を築けるよう取り組んでいます。	区分変更や生活保護の手続き等で行く。市からの通知で実践者研修や基礎研修、イーラーニング等に参加した。検査キッドの配布があり、保健所からはコロナ感染対策の情報を貰った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しい知識の習得を目的に、外部研修やオンライン研修に職員全員参加しています。身体拘束廃止委員会の活動もその一つで、第三者(法人職員)を招いてケアの質を振り返る機会を設けています。	オンライン研修を全員が受けている。「身体拘束廃止委員会」は各ユニットの委員と管理者で運営している。スピーチロックには「〇〇しませんか」等の言い換え言葉の対応を共有している。研修時に「理解度テスト」を行い身体拘束廃止の支援に努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	正しい知識の習得を目的に、外部研修やオンライン研修に職員全員参加しています。不適切なケアが放置されることなく相談できる体制作りにも努めています。	勉強会はテキスト読み合わせの他、外部研修に参加した職員が伝達研修をしている。不適切ケアは全員で考え、方向性を共有している。管理者は職員の様子を把握し、都度声をかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会へ参加し、職員全員への伝達講習を実施しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には十分は説明を心掛け、入居後も積極的にお声掛けをし入居者、ご家族の不安や疑問解消に努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、ご家族が要望やご意見をグループホームや第三者機関に報告が出来ることを明記した文書を施設内に掲示しています。日頃から良好な関係作りに配慮しています。	面会時や電話等で意見を得ている。夕方になると落ち着かない方の家族からの要望で家族と外出したところ、改善に繋がった。外反母趾の方の靴の購入に対応した。玄関に意見箱を置いている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個人面談の場で、職員の意見や提案等を聞く機会を設けています。否定することなくしっかり耳を傾け意見交換を行うことでお互いのモチベーションが高まり充実感を得られています。	ドライブの提案があり秋保に行った。実務者研修等の参加時は勤務扱い、受講料は法人の全額負担としている。受講後に伝達研修を行う事は職員の励みになっている。休暇取得は職員の要望に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員とのコミュニケーションを通して職員個々の能力を認め、必要性を伝えていきます。ホームでの役割を明確に伝えることで向上心、やりがいに繋がられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務調整をして研修会参加を支援し、職員が講師となり伝達講習を行う場を設け、お互いのスキル向上に繋げている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加することで他事業者の職員との交流を深め情報交換し自施設のサービス向上に努めています。	「八幡連携の会」に参加し、厚生病院の「院内感染対策セミナー」や市内弁護士による「高齢者虐待」等をケアマネが受講した。外部研修で小学生との交流の場を設定した話が参考になった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者とのコミュニケーションの中から、不安や困っていること要望等に耳を傾け、ご家族との情報交換を密に行い、本人様が安心できる生活支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に向け介護支援専門員と共に、本人様やご家族の不安、要望を聞き取り可能な限り受け入れるよう努めています。入居後もこまめにお声掛けすることで良好な関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報、本人とご家族の要望を考慮し、職員間で情報共有を行い、あらゆる角度からアプローチをし必要な支援を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アクティビティを通して、職員は入居者と共に楽しむことを心掛けています。活動制限や参加制約をせずに「出来ること」を見守るように心掛けている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との情報交換をこまめに行っています。本人とご家族との絆をしっかりサポートする立場であることを自覚し関わっています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様宛のお電話やお手紙はしっかりお繋げしています。時にはお手紙のお返事を職員と一緒に書いてお出しすることもあります。	ハーモニカの好きな方が居り、法人病院の音楽療法士が毎月1回来る。入居者のぬり絵を玄関に飾り来訪者の目に留まる。マッサージ師や理美容師、歯科衛生士等が定期的に訪れ、馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの関係性を考慮し座席配置しています。アクティビティの時は入居者が孤立することのないように職員から積極的に声掛けするように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が「その時」に必要な生活をサポート出来るように必要に応じた相談、支援を行えることをお伝えしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活のなかでの言葉や要望を職員間で共有している。時にはご家族からお話を聞き、入居者にとって最適な生活に繋がる思いや意向の把握に努めています。	入浴時や1日々の関わりの中から意向を得ている。食べたい物の希望が多い。「何か手伝うか」と言われる事もあり、食器を洗ったり拭いたり役割がやりがいのになっている。モーニングコーヒーを毎日楽しんでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時、これまでの生活歴を中心に本人、ご家族よりお話を伺い情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の健康状態、言動等を日々観察し介護記録や申し送りノートを用いて職員全員が把握・共有出来るように努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報収集、ケアプランの策定、カンファレンス、ケアの実行、モニタリングといった一連のプロセスを本人・ご家族の要望や関係者の意見を取り入れ、課題・目標を明確にし、継続的な展開を意識した介護計画を作成しています。	洗濯物の戻りを案じる方には、ホワイトボードに書いて確認して貰う対応に変えた。食事が半減した方に飲む栄養剤の処方がプランに加わった。話好きの方に他の方との間をとり持つことを計画に入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを個別介護記録や申し送りノートを利用し職員間で情報共有を行い介護計画の見直しに繋がっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応するために、現状を把握し「今必要なことは何か？」あらゆる角度から分析し柔軟な支援を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し積極的な交流を行い入居者にとって日常生活に楽しみ、生きがいを感じていただける支援を進めています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の訪問診療を受診し、本人の様子やご家族の希望を細かく報告・相談しています。受診報告は月1回文章でご家族へ報告しています。緊急時にも主治医に連絡し指示を仰いでいます。	全員が協力医の訪問診療を受けている。歯科診療は訪問やかかりつけ医の方もいる。専門医受診は家族対応だが、緊急時は職員も対応する。看護職員が数名居り、医療面の安心に繋がっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関係機関の看護職員とは都度、情報交換を行い適切な医療診療が受けられる体制を整えています。緊急時も連携を取り合い支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院関係者と情報交換を行い入居者とご家族が安心して治療できる環境を整えるように心掛けています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にはご家族の要望をお聞きし、これから先の方針を決めています。本人が望むであろう過ごし方、ご家族との過ごす時間を見直し支援しています。職員には看護師より看取り事前研修会、事後の振り返り研修をおこなっています。	入居時に「入居者が重度化した場合における対応に係る指針」を説明し同意を得ている。医師から看取り告知時に、家族の意向を再度確認している。看取り時の夜間対応手順書は解り易くする為、見直している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止の取り組み、緊急時の対応方法を学ぶ研修を全職員受講しています。的確な初期対応が出来るように実践訓練にも取り組みます。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回、定期的に行い通報、初期消火、避難誘導の確認訓練を実施しています。地域住民との災害訓練にも参加し防災備品確認や安否確認ルール等を取り決めました。	夜間の出火を想定した消防訓練をした。「土砂災害危険区域」でもある為、災害時の自炊訓練をユニット合同で行った。災害用備蓄品の3日分を取り出しやすい所に収納している。次の訓練を12月に予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を通して人格の尊重、プライバシー確保に対する知識習得を行っています。居室訪室時にはノックをしてから入室、排せ介助時の見守りや声掛けにおいてもプライドを損ねない配慮をしています。	名前に「さん」をつけて呼び掛けている。入居者の言動を否定せずに、入居者の個性や特徴に合わせて孫役や息子役をする事がある。トイレ誘導の際は、人の少ない所へ移動し、小さい声で話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	季節感を味わえる食事のメニューでは、入居者の思いが反映されるように個別にお話しをお聞きし、自己決定出来るように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでのタイムスケジュールは設定しているが、時間内で終わらせることを優先させるのではなく、本人が望む生活リズムを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を尊重しています。希望する物品があればご家族に相談し準備をお願いしています。清潔感のある身だしなみを心掛けています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや、その方に合った食事形態で提供しています。季節の食材を取り入れ、目で楽しめる盛り付けに工夫しています。食事の準備や後片付けも入居者と一緒に行っています。	玄関先でバーベキューを行った。ハンバーグや寿司が人気で、誕生日にはケーキを購入して祝う。調理はパート職員が担当し、食器の後片付けを入居者もしている。刻み食等の対応をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に合った食事形態を管理栄養士、言語聴覚士からの助言をいただき提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めています。歯磨きが不十分な入居者には職員が仕上げ磨きを行います。訪問歯科診療時、専門家からの助言を職員間で情報共有しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立排泄を目的に、生活・排泄パターンを把握し適切なタイミングでの声掛け、トイレ誘導の参考にしている。	排泄パターンを把握し、声掛け誘導している。着衣の手直し介助などの支援で全員がトイレで排泄ができています。夜間は離床センサー等でトイレに誘導している。夜間のみオムツ使用の方は、見守る事が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を取り入れた食事の提供、便秘予防運動の取り組んでいる。また、ご家族から本人の便秘予防につながる情報をお聞きし、個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴を楽しんで頂けるように室内温度、湯加減に気を付けています。希望があれば入浴剤を入れ香りを楽しんでもらっています。入浴時間は入居者の意に沿えるようにしています。	週2回の入浴で、事前にバイタルを測定し、風呂上がりにはスポーツドリンクで水分補給をする。季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の他、入浴剤を3種類から選べる。脱衣所や浴室は適温に保たれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ休憩や睡眠をとって頂けるようにしています。その際、居室の環境(温度、明るさ等)に気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬に関する情報は薬情情報を確認し支援しています。職員がいつでも閲覧できるように所定の場所に設置しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人やご家族から趣味や特技をお聞きし、ホームでの役割、楽しみを共に行うことで生活に張り合いを感じて頂けるように支援しています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂ける外出、本人が希望する場所への外出企画を提案しています。法人主催のイベント参加、施設周辺の散歩を支援しています。	庭で作った大葉や茄子、裏の竹やぶの筍も収穫した。桜の季節には川内方面等にドライブする。法人病院でのプロレス観戦を楽しみ、楽天の試合観戦を目指して、体力向上の為の散歩に励んでいる方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望し管理が可能であれば、ご家族の了承で所持出来るように配慮しています。外出先では本人のお小遣いから支払います。支払い証明書を発行し金額、購入品をご家族に報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者、ご家族から要望があるときには、電話やお手紙のやり取りが出来るように支援しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア全室の温度管理を行い快適に生活出来るようにしている。フロアにはサーキュレーターを設置し対流を図り、1日3回定時で換気を行っている。居室にはご家族からの写真やお手紙を掲示し居心地良く生活が送れる工夫をしています。	日中はフロアで過ごす事が多い。童謡を歌ったり、音楽や職員のリードでの体操に参加し、音や動きを楽しんでいる。入居者と職員の合作のハロウィンモールが南側の窓を飾り、園児達の来訪を待っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活歴や生活習慣等、その方の人間関係の傾向を考慮し思い思いに過ごせる座席配置やスペース確保の工夫をしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込み、本人が落ち着いてくつろげる空間になるように、ご家族の協力を頂き入居者と共に環境整備をしています。	備え付けはクローゼットやベッド等で、サイドボードや一人用ソファ、テレビ等を持ち込む方がいる。家族の写真や携帯電話等の馴染みの物で、昼食後の午睡等をして、ゆったりとその人らしく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を設置し自分のお部屋がわかるようにしています。トイレや浴室など共用スペースにはその方が理解しやすい言葉やマークで表示する配慮をしています。(浴室=風呂場、トイレ=お手洗い 便所)		